

Question: 7



離床はどの職種が行うべきものですか？

ベテランからの Answer



離床は患者さんが自ら必要性を理解して、患者さん自身で行うことを基本としましょう。医療スタッフが援助をする場合は、多職種で行いましょう。

解説

大前提として、離床は患者さん自身が能動的に行うべきものと考えます。しかし、病気や術後で痛みがあるときは、「安静第一」と考える患者さんが多いのも事実です。患者さんに、寝たきりによるデコンディショニングや、それを予防する離床の効果を教育することが重要です。その上で、医療スタッフは、患者さんが行う離床の支援を行うことが役割ですが、特定の職種が離床の支援に関わるのではなく、多職種のチームで患者さんを中心に援助することが有用です。



離床知恵袋

最初に離床を行うべき職種は？

日本離床学会の49名の医師を対象としたアンケート調査(内科医11名、外科医38名)²⁰⁾では、最初に離床を行うべき職種は看護師が1位、次いでリハビリ職種、医師という結果になっています。医師の立ち場からは、最も患者さんを近くでみている看護師が、離床に一番近いと感じているようです。離床というとリハビリスタッフという印象がありますが、看護師の離床への関わりが重要だと感じる結果です。

Rank	内科系医師	Rank	外科系医師
1	看護師 64%	1	看護師 42%
2	医師 18%	2	リハビリテーション 関連職種 40%
2	リハビリテーション 関連職種 18%	3	医師 18%
4	助手 0%	4	助手 0%
4	介護士 0%	4	介護士 0%
4	患者家族 0%	4	患者家族 0%



最初に離床を行うべきと思われる職種は何ですか？



離床のコツ

入院する前に伝える重要性

臨床では、痛み・倦怠感などを理由になかなか離床が進まず、デコンディショニングを生じる患者さんがいるのも事実です。最良の対策は、このような辛い状態になる入院前に、寝たきりの弊害や離床の必要性を伝え、理解してもらうことです。



↑ 寝たきりの弊害と離床の重要性をまとめたリーフレット「離床のススメ」は日本離床学会ホームページよりダウンロードできます。